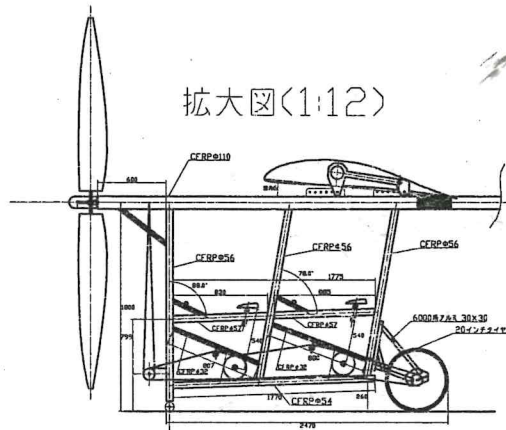


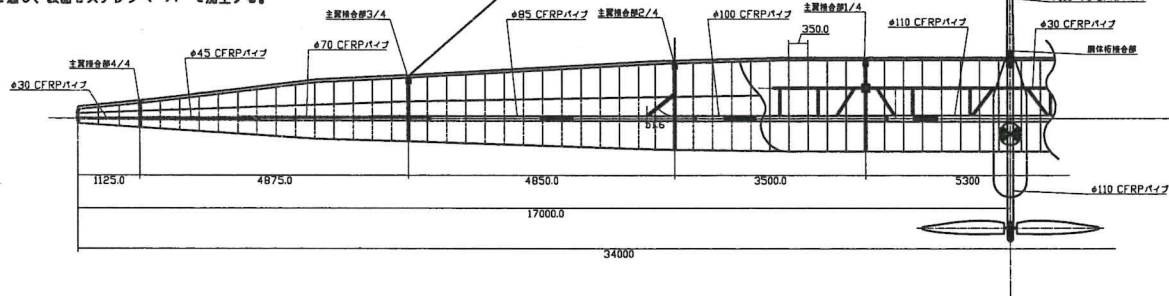
今機は二機目の二人乗り人力プロペラ機と言うことで、
 桁の?れ対策や翼の強度の増加、クランク対策など随所に
 一考機(にわとり)からのフィードバックを受けている。
 これにより一考機からの基本性能の底上げに成功している。
 また今機から、後輪に駆動ユニットを採用。これまで重量的
 な問題とスペース的な問題から採用を見送っていたが、まず
 コックピットの居住スペースを充分に確保した上でのコンパクト
 化、そしてユニットの強度を保ちつつ、軽量化を徹底的に
 する事により実用化に成功した。
 これにより離陸時の助走距離を必要最小限に抑えることができる。
 またパイロットの安全確保は、当然だが初期設計の段階から
 最優先事項として考えられている。まず、計器のインターフェ
 イスなどコックピットフレーム内に配置されるものは、鋭端部
 を作らない様にし、パイロット周りのパイプなどには着水の
 ショックに備え、スタイロフォームなどの緩衝材を配置する。
 またフェアリングの構成材料をステンペーパーやバルサなど
 のある程度の強度を保ちつつ頑しやうい物を使用する事により、
 着水後の脱出を速やかに行えるようにする。

拡大図(1:12)

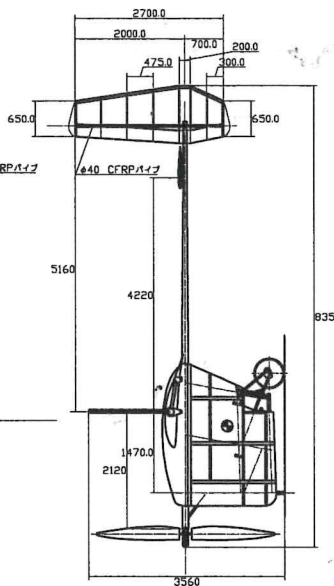
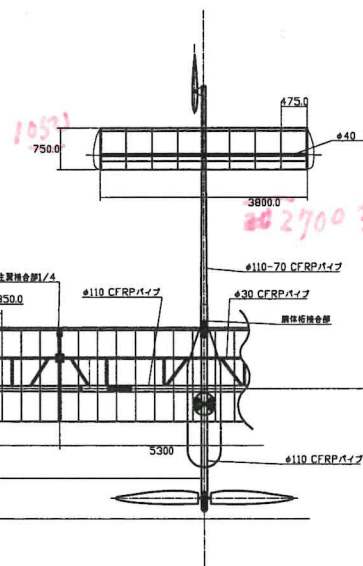


翼構成

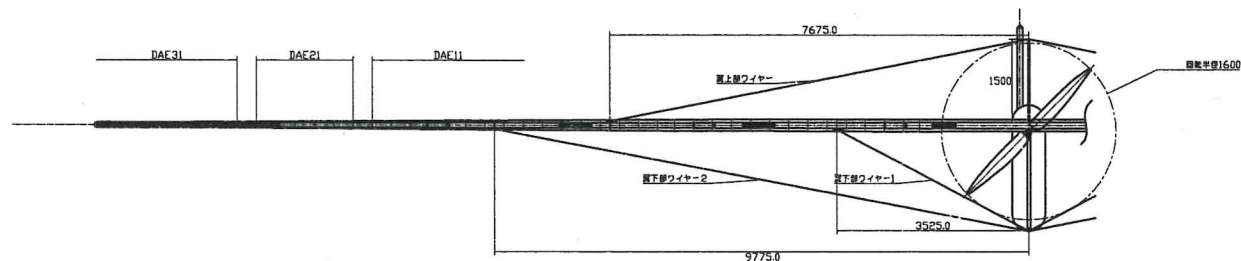
スタイロフォーム、バルサおよびステンペーパー
 により構成される。リップは基本的に350mmとし、
 翼弦に対し、upper60%,lower25%までをステンペーパー
 とする。また後縁より50mmの所に5x25のバルサの芯
 を通し、表面をステンペーパーで加工する。



後縁を面で挟まないように
 加工する事により、後縁に
 おける歪みの干渉を防ぐ。
 これにより歪みを最小限に
 抑える事が出来る。



再挑戦!!



S-060 いかるすう。

パイロット	寒川 宣光 吉浜 敦	撮影	野村 昌樹
設計	野村 昌樹	尺度	1:25
日付	2000/03/29	製図	TBT_DW
芝浦工業大学 文化会 Team Birdman Trial			
所	属	検図	